



戦後

「戦後400年」の字を新聞で見
て、「うっ、なんだ」と反応しました。

今年、「戦後70年」の字に慣れ
親しんできたのに、「戦後400年」
とは？

豊臣家と徳川家という二大権力の
最終決着戦となり、戦国時代最後の
大合戦となった「大阪夏の陣」(16
15年・慶長20年)から、今年
は、「戦後400年」なのです。

そうか、「戦後」とは、先の大戦・
第二次世界大戦からの「戦後」だけ
ではないと、当たり前のように気づ
かされました。

わたしたちの国の「戦後」は70
年続いてきましたが、「戦後」に終
符を打つことなく、永久に「戦後」
を継続させていくことが、わたした
ちの責任です。

1970年代前半に「戦争を知ら
ない子供たち」というフォークソ
ングが流行しました。

作詞をした精神科医でもあるきた
やまおさむ(本名・北山修)さんは、
「私の意図は『戦争も知らないく
せに』と言って、若者の声を抑え付
けようとしていた世代に対する発信
であり、『僕らの名前を覚えてほ
しい』という切実な自己紹介だっ
た。生身の人間が何を感じ、何を
考えているのか。その声に耳を傾
けてほしいという祈りでもあった。」
と語っています。(中国新聞 2015
年9月23日)

百年後、二百年後も、子供たちが、
「僕らの名前は、『戦争を知らない
子供たち』です」と胸を張って言
えるように、「戦後」を続けていく
決心を新たにしましょう。

教区宣教司牧活動ガイドライ から見る「家庭へのチャレンジ」

2007年・2012年と教区宣教司
牧活動におけるガイドラインが示
されました。その中に示されて
いる家庭に関する項目をピックア
ップしてお知らせします。各家庭
での福音宣教・信仰生活のヒント
にしてください。

【第1の柱：平和(外国人共生含む)】

- ミサ以外にも家庭や社会の中で、
毎日1分でも手を合わせて祈る。
- 家庭の問題・貧困・無縁社会・自
死等々、身近で苦しんでいる方々
に寄り添い、人権の視点に立ち、
「主の平和」を実践します。
- 外国籍の人の、家族・教育・住居・
健康・労働・社会保障・人権など
のさまざまな問題、困難を解決す
るために、積極的に取り組みま
しょう。このために、同じことを
している市民団体や行政などと協
力し、ネットワークを築きましょう。

【第2の柱：きょうどう】

- 将来を担う青少年に関する課題を
共有し、信仰継承、召命、その他
の活動を理解し支援しましょう。

平和の使徒となろう



【第3の柱：養成】

- まず大人が、ミサや祈りを大切に
し、そこから互いに仕え合うこと
ができ、愛し合う行動ができるよ
うにする。また、司祭は説教の内
容を、信者の日常生活につながる
実のあるものとするように努力す
る。
- 家庭の中では、信仰継承の中心は
両親・家庭である。祈りの姿の手
本を見せ、家庭祭壇を作るなど、
信仰に満ちた家庭を作る。
- 次世代への信仰継承に力を注ぎま
す。
一家庭、家族での子どもへの信仰
継承
- 平和の福音を伝える源泉はミサで
す。ミサにおいて神のことばと聖
体に養われて、一人ひとり家庭、
学校、職場、地域、社会の中に派
遣されます。
- 主日のミサの聖書の朗読箇所(「聖
書と典礼」の利用)を前もってよ
く読みます。一人で、家庭で、ま
たはグループでよく味わってから
ミサに参加します。

主な教会暦(主日を除く)

10月01日	聖テレジア(幼いイエスの) おとめ 教会博士
10月02日	守護の天使
10月07日	ロザリオの聖母
10月15日	聖テレジア(イエスの) おとめ教会 博士
10月17日	聖イグナチオ(アンチオケ) 司教殉 教者
10月28日	聖シモン 聖ユダ使徒(祝日)



(ホームページ)